

令和5年度シラバス「音楽Ⅰ」

教科	芸術科(音楽Ⅰ)	単位数	2単位	学年・組	1年2組, 1年4組, 1年6~8組
使用教科書	MOUSA1 (教育芸術社)				
副教材等	MUSIC NOTE 九州高等学校音楽教育研究会 編 (啓隆社) つどい 高校生の歌集 九州高等学校音楽教育研究会 編 (啓隆社)				

1. 学習の目標

音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。

2. 学習の計画

学期	月	配当時間	教材	指導目標	備考
一学期	4	2	オリエンテーション	音楽1の授業内容について Music Noteの活用方法	基礎資料アンケート実施
		4	歌唱(斉唱) ・校歌 ・今, 咲き誇る花たちよ ・世界に1つだけの花	歌唱曲に親しむと共に表現を工夫しながら歌唱に親しむ 校歌の歌詞を理解して歌える 発声の基礎を理解する	授業に積極的に取り組んでいるか
	5	4	アンサンブルの楽しみ 「風になりたい」	声部の役割を理解し楽器の音色や奏法の特徴を生かしながら全体の響きに気をつけてアンサンブルをし, 各グループ内で表現を工夫する	実技テスト実施
		2	音楽理論 ・音階と音名 ・音符と休符	音楽の諸要素について学習する 音階や音符等について理解する	ミュージックノートを活用 ノート提出 筆記テスト
	6	8	歌曲の世界 ・野ばら ・この道 ・Caro mio ben ・おおシャンゼリゼ	歌曲が持つ曲想を歌詞の内容や楽曲の背景などとかかわらせて, イメージを持って歌い, 表現を工夫する	響きある発声を心がける 実技テスト実施
		4	舞台芸術の世界 歌舞伎「勸進帳」 オペラ劇場をたずねて	舞台芸術の特徴を理解し, それらの文化的・歴史的背景に関心を持って, そのよさや価値について考え味わう	DVD鑑賞 感想文提出
	二学期	9	8	器楽(三線) ・簡易な練習曲 ・安波節 ・安里屋ユンタ ・ていんさぐぬ花	楽器の特徴・名称等を理解する 郷土の音楽の歴史を理解する 基本的な奏法を身につける 表現を工夫した演奏(歌唱)を行う
8			器楽(ギター) ・容易な練習曲 ・夢の中へ ・グリーンスリーブス	ストローク奏法を中心にコードを学習 楽器の特徴・名称等を理解する ギターのポジションの理解 基本的な奏法を身につける 曲種に応じた奏法を工夫する	楽曲に応じた表現の技能を身につける 実技テスト実施
10		2	音楽理論 ・調について ・音程	音楽の諸要素を学習する 長調と短調について理解する	ノート提出 筆記テスト
		11	2		

	12	10	クラスコンサートにむけて ・これまで取り扱った教材より選択	独自またはグループの特性を生かし、クラスコンサートに向けて選曲し、アンサンブルの楽しさや表現の工夫の楽しさを味わう 他のグループとの比較鑑賞を行い、鑑賞の能力を高め、ステージマナーや時間の芸術である音楽の楽しさ厳しさを味わう	実技テスト実施 相互評価
三学期	1	14	混声合唱の響きを求めて ・混声3部合唱曲	本校の校内合唱コンクールに向けて各クラスの自由曲を選択し取り組む。 発声の基礎を充実させ、歌詞を吟味し、表現の工夫をする	パート歌唱実技テスト実施
	2				
	3	4	創作に挑戦 ・音階から音楽を作る 民謡音階 全音音階 沖縄音階	音階の特長を生かし、音楽を形づくっている要素の働きや構成を工夫して、自己のイメージに合った音楽を作る	音階が醸し出す雰囲気を感じ取って旋律を作ることに関心を持ちイメージを持って主体的に取り組もうとする

3. 評価規準・評価方法

評価は、次の4つの観点から行います。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
それぞれの題材の基礎的な知識、技能を身に付けている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現を工夫し、表現意図を持っている。	学習内容に関心を持ち、主体的・協働的に学習活動に取り組んでいる。
実技テスト、学習プリント(ワークシート) 豆テスト	学習の取り組み状況 (観察) 実技課題への取り組み (演奏)(ワークシート)	実技課題進捗状況 (演奏) 学習の取り組み状況 (観察) 振り返りシート

学習の取り組み状況(観察)、実技課題進捗状況、学習プリント、ノート提出、ペーパーテスト、実技テスト、授業態度を総合的に判断して決定します。

4. 担当者より

- ・本校では、1人に1台のクラシックギターが用意された学習環境があります。音楽Ⅰでは、コードを理解し、ストローク奏法による学習をします。
- ・3学期に校内合唱コンクールを実施しています。音楽Ⅰにおける歌唱学習のまとめとして、課題曲と自由曲を演奏します。
- ・実技の評価は自己の音楽経験(ピアノを習っている、習ったことがあるなど)で大きく左右されないように形成的評価をします。
- ・表現領域においては、細かい実技課題が提示されます。個々のレベル、ペースで習熟する時間がありますのでしっかり取り組んで下さい。
- ・ソルフェージュとは、音楽表現の基礎を養成するものです。本校では、コールユーブンゲン(簡易なメロディの階名唱)とリズム練習を行います。